

25周年に寄せて

9月の風、秋の気配～次世代に紡ぐメッセージ～

法人アルカディアは2000年9月船出した。丁度、21世紀の幕開けとともに大海に乗り出したことになる。

それから25年の歳月が流れた。長いようであつというまだった。いろんなことを想起させられる。

引き返すことがない海上で、嵐にも遭遇し、また沈みゆく夕陽にST一同感動したこともあった。船員たちは、それぞれの持ち場で己の任務を全うし、いまなお、航海の途上にある。

まずもって、この長い航海において奮闘してきた全てのスタッフ（船員たち）、そして周りで温かく支えてくれた全ての人たちに心から感謝したい。

時に私たちは、＜何処に向かっているのか？何処に向かうべきか？＞...その行く先を巡ってあれこれ議論を交わした。（目的地）は見えているようで容易には見つからなかった。水平線のかなたに目をやりながら、その果てしなさ（遠くて見えない目的地）に呆然と立ち尽くす日々もあった。

様々な想いが浮かんでは消えていく。皆さん、いろんなことがありましたネ。今振り返ると、馬車馬の如く、駆け抜けるだけで、後ろに皆ながついてきてくれているのかどうか？も顧みることがなかったような気がしています。

ふと、ここでペンを握る手が止まってしまいます。
25年という年月を思い起こすに＜一体ナニガシのことがナシエてきたのだろう？＞という想いが漠然と脳裏をかすめ、後頭部を殴られるような（恐怖心）が襲います...

私たちは精神障がいをもつ人たちに＜より良き福祉サービス＞を提供しようと営為を尽くしてきたつもりですが...。しかし、その＜より良き＞というとき、自分たちの＜物差し＞だけで測っていたのではないのか？＜より良き＞を語るとき、サービスを受ける当事者の声にどれくらい耳を傾けてきたのだらうと...

＜地域の根差した＞という姿勢についてもそうだ。この（地域）社会をどれだけ変革してきたのだろうか？

確かに少しずつではあれ、社会は変化してきた。しかし...その変化は障がいをもつ人たちにとって＜安心して暮らせる＞世の中になってきたのか？その過程を当事者とともに考えてきたのだろうか？

ましてや、精神障がい者福祉が未だ立ち遅れている現状を打開することができているのか？この問いかけには、無念ながらNO！と返答せざるを得ません。当法人の力だけではないんともしがたい＜厚い壁＞が立ちはだかっています。

船は前に進めども、未だ＜水平線の向こう側＞は見えてきていません。

地球の原理・原則からすれば、一回りすれば元の地点にたどりつくはず...。あとどれくらい航海すれば元いた場所に戻ってこれるのだろうか？

そしてそのとき、私たちは、＜誇るに足る地平＞にたどりついているのだろうか？社会はどう変革を遂げているのだろうか？こうしたことを考えるたびにペンの進み具合が鈍くなっていきます。

仕方ないことかもしれない。社会を変えるなんてことがそう簡単に可能になるはずがないから。だが...。物事は10年くらいの単位で少しずつ変化していくのも又現実です。こうした一歩一歩の歩み、地道な実践が世の中を良い方向へと導いていくことを信じたい。

法人は、＜利用者本位・人権尊重・リカバリー＞という三つの理念を掲げてきましたが…。理念とは、法人の向かうべき方向を示すもの…。

この理念は着実に実践されているのだろうか？理念と実践は乖離してはいないか？船員たちは絶えず、前を見ながら、自分たちのたどってきた道、穏やかな波打つ海原をも振り返りながら進んでいかなければならない。なんとこの船は水夫たちが漕いで進む＜古い船＞なのです。

この寄稿文の最後に次のメッセージを送りたいと思います。

次世代に告ぐ…。

必要でかつ大切なのは、＜チャレンジ精神・創造性・気概・思いやり・一体感＞であることを…。

一言で言い表すなら自分（たち）が＜したいこと＞を見つけ、邁進することだ。

私たちの仕事は、＜ルーチン化＞した時点で新たなものが求められるといっても決して過言ではない（ルーチン業務は無意味ではないが…）。＜したいこと＞を求めてやり遂げる道は、チャレンジ精神が求められる。創造性、闘争心も不可欠であり、気概に満ち溢れながらも互いに思いやり、一体感（協働心）が求められることは言うまでもない。

その過程は決して平たんな道ではない。いや、茨の道だからこそ、そこには＜闘い＞がある。自分自身との、あるいは時として社会との闘いが…闘いの武器は先に記した持つべき気持ちに集約されるだろう。

私たちの歩む道を遮ったりする＜何か＞が、横たわっているなら、それを乗り越えてきた。数日間続いた嵐さえも超えてきた。

だからといって、そんなに闘争心を前面に打ち出す必要もない。争いごととはむしろ回避した方がいい。求められているのは、着実なる私たちの＜戦略・戦術＞なのだ。海の気候、船員たちの気持ち、名もなき、島に立ち寄り、食料を補給したり束の間の休息を取ったり、様々な気分転換をしながら、この25年間の航海を続け、今ここに立っている。

世の中は＜対立より協調＞の時代に突入している。あえて＜対立・対峙＞を強調するのも得策ではない。できうることならば、嵐への遭遇は避けたい。自然や（様々な）人との連帯・協調を大切にしていきたい。

しかし…。次のことも肝に銘じておいてほしい。

全てが協調で済まされないことも。あえていうなら＜対立があつてこそ真の協調＞が鮮明になってくることもありうることを…。

次世代へのメッセージを送ります。

各人は＜したいこと＞を見つけてほしい。これは＜夢・希望＞と言い換えてもいい。

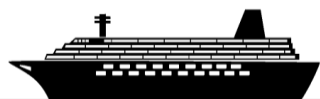
＜したいこと＞を実行しようとするとき、そこに＜苦難・苦悩・失敗・挫折などなど＞が待ち構えているかもしれない。いや、多くの場合、確実にそれらに突き当たると思います。

しかし…。＜したいこと＞が＜本気・本物＞であり、なんとしても実現したいと思うならば、待っている＜苦悩・失敗＞などもあまり気にならないものです。＜自らの希望・夢＞の方が最後には勝るから…。

＜失敗や挫折＞も楽しみに変えることができるものなのです。

ともあれ次世代へのバトンは25周年を一区切りとして確実に渡されようとしています。

『新たな航海に乗りだすのは古い水夫じゃないだろう』



2025. 9. 22
記：(社福)アルカディア
理事長 中田 駿



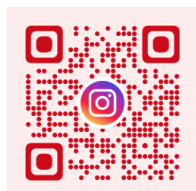
GH

はばたき

麦の家

麦の家
フリモ

麦の家
インスタグラム



(社福) アルカディア創立25周年によせて

太田精神障がい者を守る家族の会(ひまわりの会)会長 岡部典行

(社福) アルカディアが設立25周年を迎えるということです。真におめでとうございます。何かを始めるといことはたいへん困難であり、また継続するといことはさらに困難です。理事長の中田駿さんを中心に太田市のパイオニアとして精神障がい者向けのグループホーム等の施設を開設し運営されてきました。その努力にはたいへん感謝いたします。近年運営を担っている若手の方々も明るく真摯に対応してくださっておりありがたい限りです。ひまわりの会事務局も麦の家におかせていただいています。

私は当事者ですが、中田さんは当事者中心に物事を考え、押し付けることをしません。もっとお外から考えよう、という感じなのです。それは当事者にとってたいへんありがたいことです。外に一步踏み出せば、いろいろな規則に縛られます。それは当事者にとって一步踏み出しづらいものなのです。エスカレーターは左側に乗るのかどうなのか、横断歩道を渡り切れるのかどうなのか、思わぬところで躓きます。そうやって悩みながらも当事者はなんとか外に一步踏み出しています。それをアルカディアの方々は助けてくださっています。

私がアルカディアの名を知ったのはひまわりの会に入ってからです。十数年前のことです。そして会長になり評議員の依頼がありました。それから付き合いを深めていくことになりました。シンポジウムにも第二回から実行委員に加えていただいております。いろいろ関わって勉強していくうちに、私はまだまだ分かっていないと思うことがありました。いろいろ教えていただいております。

ひまわりの会についてお話いたします。ひまわりの会は現在会員22名です。ひまわりの会に入りますと群馬つつじ会にも入れます。また全国組織“みんななっと”の情報も得られます。

月一回の例会では他の人には話せないそれぞれの悩み苦しみを打ち明け、共有しています。もちろん話したところですぐにすぐ状況が改善されるわけではありません。ですが人に話すことで頭の中が整理されます。また、少しでもストレスが解消されます。当事者が話を聞いてくれる人にいろいろ話すことによって、症状が改善していくケースに似ています。また聞いている人は自分も同じだと仲間意識ができて、孤独感が減少していく効果もあります。ですから月一回の例会に参加するのだと思います。また治療や薬についての知識も得られます。非常に有用だと思います。

また年2回心の病気勉強会を開催しています。2024年6月29日には三枚橋病院名誉理事長檀原暢先生を講師にお迎えして「精神科医療についての疑問・質問」をテーマにお話を伺いました。10月19日にはアルカディア理事長中田駿さんをお迎えして「精神障がい者と接してきて」をテーマに、さらに好評につき2025年3月15日にも中田さんをお迎えして「続・精神障がい者と接してきて」を行いました。5月31日には檀原先生をお迎えして「診療の場で考慮していること」をテーマにお話を伺いました。10月4日には群馬つつじ会との共催でフィナンシャルプランナー久保 敏さん、社会保険労務士浅田 均さんをお迎えして「お金と暮らしのセミナー」～親亡き後、障害年金等について～を行う予定です。

毎回30人以上の参加者があり必要性を感じております。また、3月15日には地元のシンガーソングライター“じ〜こ”(太田自子)さんをお迎えして歌を歌っていただいています。♪「こころのベースキャンプ」♪はじ〜こさんがひきこもり支援の仕事に携わるようになって生まれた曲です。10月4日にもまた歌っていただく予定です ♪ #

研修バス旅行も行っており昨年は三枚橋病院、麦の家の見学、昨年は武蔵野病院、渋沢栄一記念館の見学、今年はずつじメンタルホスピタル、向井千秋記念子ども科学館見学の予定です。



「2024, 6, 29お話しされる檀原暢先生」



「2024, 10, 19お話しされる中田 駿さん」

私が活動していく中で印象に残っているのはJR等大手私鉄運賃減額運動です。署名活動から国会請願、都道府県議会請願、市町村議会請願を行いコロナ禍に入りました。その間もひまわり便りや要望書を提出し、みんなねっとの役員の方々は国土交通大臣に要望に行き、お願いの葉書を書きました。そして着手から約10年願かなって2025年4月からの実施が発表されました。

月並みな言葉かも知れませんが「あきらめなければ夢はかなう。」と実感しました。みんなねっと中心に多くの人たちが一つの目標に向かってがんばった結果です。やっと他の障がいと一緒にになりました。ですが改善点はありますのでこれからは3障害協力して要望していきましょうということです。やればできる可能性が出てくる。やらなければ可能性は0ですし。

今夏、アルカディアの中田さんより要望書を連名でしませんか、とお話がありました。これからはいろいろと協力してやっていきましょう、とありがたい言葉をいただきました。また、片山さんからも手伝えることがあったら遠慮なく言ってください、と言っていただきました。たいへんありがたく思っています。時の移ろいで日本全国少子高齢化、8050問題が9060問題になりつつあります。ひまわりの会も会員は高齢化して減少しています。協力できることは協力して活動していきたいと思えます。続けていればだれか見えています。少なくともお天道様はみんな見えています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

※群馬県精神障害者家族会連合会(群馬つつじ会) 電話相談あります。TEL 0272-89-9647



「2025, 3, 15 優しい
メッセージを歌で届ける“じ〜こ”さん」

設立25周年を迎えて

この度、法人アルカディアは設立25周年を迎えることができました。法人職員として、これほど喜ばしいことはありません。

私は平成23年に入職し、今年で14年目、36歳になります。25年前の私は小学校5年生で遊びに夢中でしたが、その頃から法人アルカディアは動き出し、最大の理念である《利用者本位の体現》に取り組んでいました。その理念は今も色濃く継承されています。

「利用者本位」という言葉は一見きれいで耳障りも良いですが、実際に体現するとなると支援者にとって悩ましく、時には辛いこともあります。有難いことに、私は恵まれた先輩や後輩と共に日々の支援を行っていますが、時折「皆はどんな思いで利用者本位を感じ、実践しているのだろうか」と考えることがあります。

私は周囲にこう伝えるようにしています。

「自分なりの体現で構わない。利用者が良し悪しを決めるものだから。食い違ったら修正すればよい。ただし、それは一人では難しい。チームで支え合うことこそが大切だ。支援者の支援者は支援者なのだから。」

25周年という節目を迎え、新たな夢や希望に向けた一步を踏み出す今だからこそ、原点である理念に立ち返ることが重要です。アルカディアが何を基盤にしてきたのかを再確認し、失ってはならないものは大切に守り、より強化すべきものは全面に押し出していく——その姿勢こそが、これからも続くアルカディアの未来を支えると信じています。

記： 井汲真吾

編集後記

船員となり、まだ数年ですが…

これまでの、そして、今後へのアルカディアの熱い想いは、当事者の方々、地域へ充分に伝わり、現スタッフへ受け継がれ、また新たな時代での航海を記録していくのだろう。基本理念という旗をかかげ、大事にし、進んでいきたい。

ニュースレター編集員

法人本部

群馬県太田市鶴生田町733-123

TEL：0276 (20) 2509

FAX：0276 (20) 2510

HP：<http://arcadia-gr.com>